



みどりの風

平成31年1月8日発行
校報 第559号
(みどりの風 第102号)
練馬区立関町北小学校

新しい年を迎えて

校長 大野 泰弘

平成31年が始まりました。保護者・地域の皆様には、お健やかによき新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。本年が、皆様にとりまして、ますます幸多き一年となりますよう、祈念申し上げます。

今日から、学校には子どもたちの元気で明るい笑顔が戻ってまいりました。今年4月末で「平成」という一つの時代が終わりますが、平成30年度に残された3ヶ月間、引き続き、子どもたちが安心して、笑顔や喜びに満ちた学校生活を過ごすことができますよう、教職員一同、心を引き締めて努力してまいります。

さて、その「平成」が終わる今年、本校では開校60周年記念行事が開催されますとともに、校舎の全面改築工事も行われます。すでに、校庭には仮囲いのフェンスが並べられ、子どもたちが慣れ親しんできた関北山、関北の森、各種の遊具などがフェンスの陰に隠れてしまいました。子どもたちには一抹の寂しさもあることですが、今後、子どもたちが、変化していく環境の中でも、互いに安全に気を付け、支え合って、これまで同様、充実した学校生活を続けていくことができるように十分に配慮してまいりたいと考えております。

ところで、毎年、年頭にあたり、「心を開き、夢を育てる」という言葉が私の学校をお預かりする基本的な理念であるとお伝えしておりますが、今年の本校の教育活動の視点を、以下の4つの「C」で始まる言葉をもとに考えてみました。

Change (変化)

校舎等全面改築工事が始まったことにより、学校の教育環境がその進捗状況によって変化し続けていきます。その中で、まず考慮することは、子どもたちの安全(事故防止)、同時に心の安定(遊び場の減少によるストレスの軽減・回避)ということです。また、2020年度からの小学校学習指導要領の全面実施に向けて、教育課程も柔軟に変化していかなければなりません。今後の時代や社会の変化を見通して、本校の教育活動に何が求められるのかを考慮し、実践につなげていきたいと考えています。

Continuation (継続)

開校60周年行事の基本コンセプトは、「過去を継承し、現在を見つめ、未来を創造するとともに、本校を『心の故郷』として、その一員であることに誇りをもつ。」ということです。開校以来60年の歴史と伝統とは何か、教師も考え、子どもたちにも問うていながら、思い出の校舎はなくなってしまっても、残すべきものは残していく。そして、家庭や地域社会との絆を深め、学校や地域社会の一員としての誇りをもって、変化していく社会の中でも、人に優しく、思いやりをもって、人や社会の役に立とうとする貢献意欲と自らの未来を力強く切り拓いていくエネルギーのある子どもたちを育てていきたい、そのための教育活動を今後も継続していきたいと考えています。

Conversation (対話)

学校は地域の中にあり、開校に向けてご尽力された多くの皆様の思いや願いと共に発展してきました。その学校が開校60周年を迎え、また、新校舎建設に向けて動き出す今年、多くの面で「対話」が欠かせないと思っています。子どもたちには、情報化社会が一層加速していく中、バーチャルの世界ではなく実生活における「対話力」が求められていきます。一方、学校関係者には、新しい学校が完成したときの喜びを全ての人と共有するために、子どもたちはもとより、保護者の皆様・本校の同窓生・地元町会をはじめとする本校に縁のある皆様・近隣にお住まいの方を含めた地域社会の皆様等との、柔軟で、誠実な「対話力」が求められると考えています。

Creation (創造)

新しい学校を創造していく過程において、子どもたちの学校生活に及ぼす影響は皆無ではなく、不安や心配は勿論ありますが、単にネガティブに考えるのではなく、この期間にしかできないことは何か、どんな学校像を描いていくのか、それらを前向きに考え、この数年間がこれからの新しい関町北小学校の基盤を創造していくのであるという、夢と希望と気概をもち続けていくことが大事であると思っています。その中で、横並びや前例踏襲といった内向きな考えではなく、実現不可能なことにも果敢に挑戦していく意気込みで、ハード面の校舎改築だけでなく、ソフト面でのよりよい教育課程の編成にも創造的・建設的に取り組んでいきたいと考えています。

この一年も教育目標の「共に生きる」という精神を大切にしながら、本校に通うすべての子どもたちに対して、よりよい教育実践を積み重ね、夢・希望・信頼・活力にあふれた関町北小学校の経営に努めてまいりたいと存じますので、皆様の変わらぬご理解、ご支援、ご協力のほどをお願い申し上げます。